



コマツのサステナビリティ推進の取り組み

コマツ

常務執行役員 サステナビリティ推進本部長

横本美津子

2022年12月15日

サステナビリティ推進本部の横本です。

本日は、当社の「サステナビリティ推進の取り組みについて」ご説明いたします。

目次

1.サステナビリティ推進本部の役割・体制

2.サステナビリティ基本方針

3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決

4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について

最初に、私たちサステナビリティ推進本部についてご説明いたします。

サステナビリティ推進本部について

サステナビリティ推進本部の設立

- ▶ コマツグループのサステナビリティ経営推進に関する業務を統括するサステナビリティ推進本部を2021年4月に新設。ESGのうちE・Sについて推進する役割・機能を持つ。
- ▶ あわせて、すべてのステークホルダーに、**コマツグループのサステナビリティ経営に関する考え方や活動を伝えていく**ことも本部の重要な役割。

組織・体制

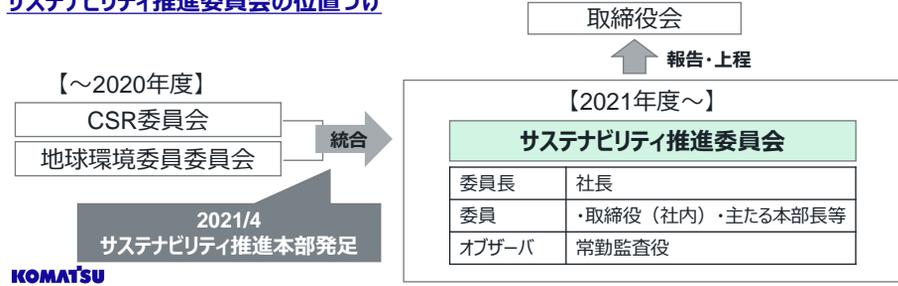
サステナビリティ推進本部

- 環境管理
- CSR
- 地雷除去プロジェクト
- コーポレートコミュニケーション

サステナビリティ推進本部が事務局の全社委員会

- **サステナビリティ推進委員会**
- 情報開示委員会

サステナビリティ推進委員会の位置づけ



サステナビリティ推進本部は、ESGのうちEとSを推進する役割・機能を持つ組織として、21年4月に新設されましたが、コマツとして新しい機能が増えたわけではなく、既存の部門を本部として統合し、より連携よく活動を進められる体制となりました。

マスコミ対応や統合報告書・ESGデータブックなどを通して、コマツの活動を広く社内外に開示することや、個人投資家や個人株主の皆さんに向けたイベント等も当本部の役割となっています。

こちらに記載のサステナビリティ推進委員会は、CSR委員会と地球環境委員会が統合されたものですが、のちほどご説明する「サステナビリティ基本方針」は、本部発足後、この委員会で議論をした上で、取締役会に上程し、21年12月に策定しました。

目次

- 1.サステナビリティ推進本部の役割・体制
- 2.サステナビリティ基本方針
- 3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決
- 4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について

次に、21年12月に策定されたサステナビリティ基本方針について説明致します。

コマツの存在意義：私たちの存在意義・価値観・ブランドプロミス

【私たちの存在意義】

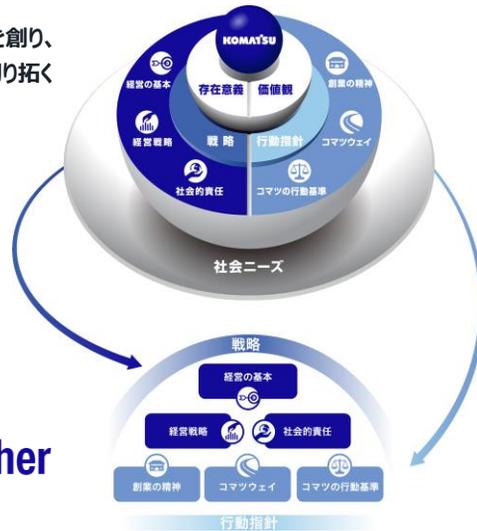
ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、
人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く

【私たちの価値観】

- ・ 挑戦する
- ・ やり抜く
- ・ 共に創る
- ・ 誠実に取り組む

【ブランドプロミス】

Creating value together



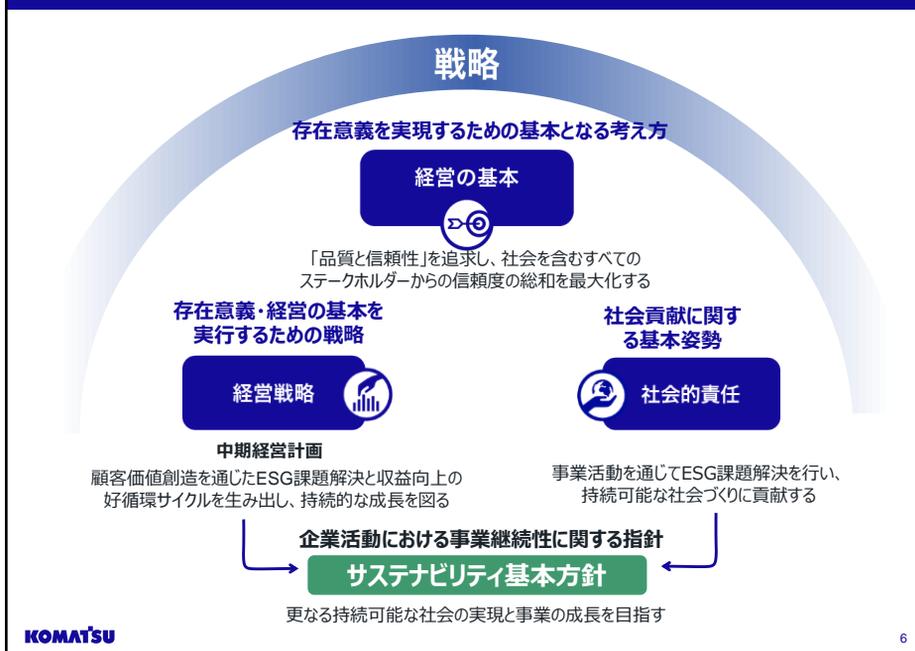
KOMATSU

5

当社は、昨年迎えた100周年を機に、存在意義（パーパス）を、「ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く」であると明示し、ブランドプロミスを「Creating value together」としました。

また、存在意義や価値観について、創業の精神、経営の基本、コマツウェイなど先人たちの築き上げてきたものを踏まえ、コーポレートアイデンティティを整理・図式化しています。

コマツの存在意義：存在意義を実現する戦略の考え方



こうした存在意義を実現するための基本となる考え方が「経営の基本」で、また、これらを実現するための戦略が、「中期経営計画」となります。

会社の戦略を通して実現する、社会と企業の持続可能性の両立や、社会的責任を果たす姿勢を明示するために、昨年12月に「サステナビリティ基本方針」を策定しました。

サステナビリティ基本方針

私たちは、これまで「品質と信頼性」を追求し、社会を含むすべてのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化することを「経営の基本」とし、ステークホルダーとの強い信頼関係を築く努力を重ねてまいりました。

地域社会との共生を目指す精神は創立時から脈々と受け継がれており、事業活動を通じた社会貢献が当社の基本的な姿勢です。

私たちの存在意義は「ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く」ことです。私たちは、これからも、持続可能な社会の実現と事業の成長のために、重要な課題に取り組み、社会や外部環境の変化に柔軟に対応できる企業グループとして、コーポレートガバナンスの一層の充実に努め、ステークホルダーと共に社会に貢献してまいります。

人、社会、地球と共に栄える未来を切り拓くために、私たちが行うこと

人と共に	社会と共に	地球と共に
<ul style="list-style-type: none">◆多様でグローバルな人材が、個を尊重しつつ、一つのチームとして、やりがいと誇りを持って、安全・健康に働くことができる環境を提供します。◆さまざまな現場や地域の課題解決のために挑戦を続け、新たな価値をお客さまと共に創り、社会に貢献できる人材を育成します。◆コマツグループとして、すべての事業活動に関連する人権を尊重します。	<ul style="list-style-type: none">◆持続可能なインフラ整備と資源開発および循環型社会を実現する安全で生産性の高い商品・サービス・ソリューションをお客さまに提供し、事業活動を通じて社会に貢献します。◆取引先や地域社会と相互に信頼しあい、公正かつ共存共栄を可能とする関係を築きます。◆法令をはじめとした社会のルールを遵守すると共に、社会を含むすべてのステークホルダーからの要請や期待に誠実に応えるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none">◆あらゆる事業活動を通じて、先進の技術を駆使して環境負荷を低減し、地球環境の保全に努めます。◆ものづくりと技術の革新で、地球環境の保全と事業の成長の両立を図ります。◆ステークホルダーとの協働・共創を推進し、より良い地球と未来の実現を目指します。

株式会社小松製作所
代表取締役社長（兼）CEO

小川 啓之

KOMATSU

7

こちらが、当社のサステナビリティ基本方針です。

コマツは、事業活動を通じた社会貢献を基本姿勢として、地域社会に貢献するとともに、地球環境や人権などに関する方針を策定してきました。

また、これまでサステナビリティ推進について、社員への理解を深め、具体的な活動につながるための教育や各種方針に基づく活動を進めてきました。

一方で、外部環境は刻々と変化し、気候変動は深刻さを増し、企業には、より持続可能な社会実現への貢献が求められています。

今回包括的な方針として、社会の要請に対して誠実に対応する当社の姿勢や、私たちが行うことをあらためて示したものです。

存在意義をベースとしており、人・社会・地球のカテゴリーにわけて、明文化しました。

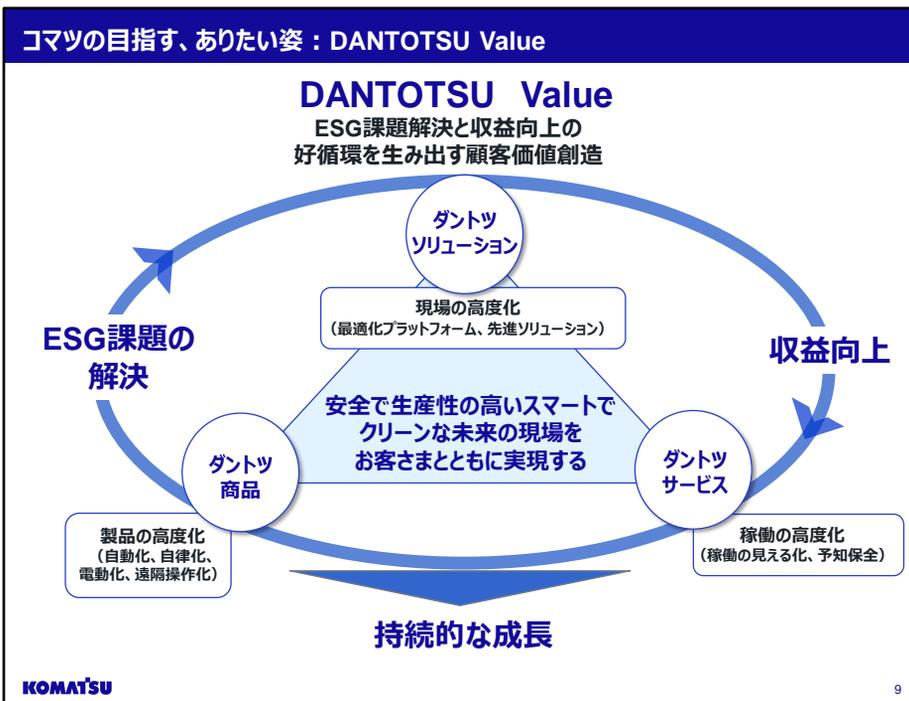
昨年度は100周年という節目の年であり、2050年カーボンニュートラル宣言もしました。サステナビリティ推進に関する包括する方針を社内外に明示するには、タイミング的にも良かったと考えています。

尚、これまでに策定した人権に関する方針や、地球環境方針などの既存の方針は、この方針の傘下に入った形になります。

目次

- 1.サステナビリティ推進本部の役割・体制
- 2.サステナビリティ基本方針
- 3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決**
- 4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について

次に、22年度～24年度までをターゲットとした中期経営計画におけるESG課題の解決についてご説明致します。



中期経営計画における、コマツの目指す姿がこちらです。

スローガンに掲げるDANTOTSU Valueとは、「安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場をお客さまと共に実現する」ために、ダントツ商品、ダントツサービス、ダントツソリューションが一体となり、新たな顧客価値を創造することにより、ESG課題解決と収益向上の好循環を生み出し、持続的成長につなげていくことです。

新中期経営計画（2022年度～2024年度）：外部環境の変化

外部環境は大きく変化し、不確実性が高まっている。

政治・経済

- 米中競争の激化と経済安全保障リスク
- 中国：国内政策と経済・外交政策の影響
- 地政学リスクの増大（ウクライナ情勢等）
- サプライチェーンの不安定化
- 有事への対応力の必要性増大（感染症、自然災害も含めて）

環境・エネルギー

- 気候変動、**脱炭素化**への機運の高まり（COP26：1.5℃目標を確認）
- **カーボンニュートラル化**への加速
- EV化の進展（自動車産業）
- 水セキュリティ、生物多様性保全
- グリーン投資拡大、情報開示要請の高まり

技術

- **デジタルトランスフォーメーション（DX）**の加速
- 先進技術の発展、オープンイノベーション（自動化、電動化、遠隔操作化、AI 等）
- SaaS (Software as a Service) の拡大
- データ・アナリティクスの進化
- サイバーセキュリティリスクの増大

社会・価値観

- **ダイバーシティ&インクルージョン**の普及（ジェンダー、障がい者、LGBTQ 等）
- 多様な働き方の進展
- 社員エンゲージメントの重要度の高まり
- 人権・企業倫理に関する社会的要請の高まり
- ガバナンス・リスク管理の高度化

持続可能な成長に向けた基盤づくりが課題。

KOMATSU

10

今回の中期経営計画の策定に際し、今後の外部環境変化を整理しています。

まず、言えることは、外部環境は大きく変化し、不確実性が高まっているということです。

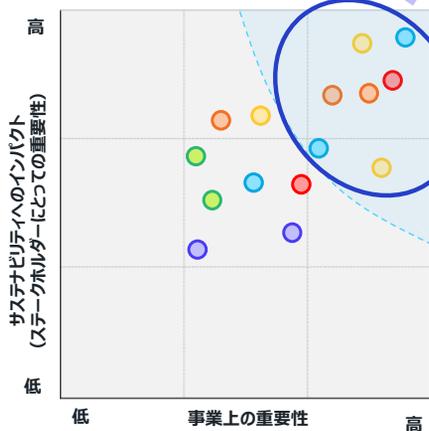
こうした外部環境の変化と事業リスクへの対応力を強化するとともに、変化をビジネス機会と捉え、持続可能な成長基盤を整備していくことが課題と考えています。

中期経営計画（2022年度～2024年度）：コマツにおけるマテリアリティ

コマツにおける重要性と、ステークホルダーにとっての重要性が重なるエリア：
環境、顧客、社員、ガバナンス の4分野における課題を最重要課題として認識し、成長戦略に反映

【マテリアリティ（重要課題）分析】

- 環境
- 倫理・統治
- 顧客
- 人権
- 社員
- 地域社会



分析によって判明した
最重要分野と具体的な課題

中期経営計画
成長戦略

マテリアリティ	
環境	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 低炭素・環境負荷低減へのソリューション開発 ➢ 資源循環 ➢ エネルギー使用量の低減 ➢ 事業活動を通じた森林保全への貢献
顧客	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ソリューション提供 ➢ 製品安全・品質
社員	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 労働安全衛生 ➢ エンゲージメント向上 ➢ ダイバーシティ&インクルージョン ➢ 能力開発
倫理・統治	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コーポレートガバナンス ➢ コンプライアンス
人権	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 人権の尊重
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域社会への貢献

KOMATSU

11

今回の中期経営計画策定にあたり、当社におけるマテリアリティ（重要課題）分析を行い、6つの分野におけるマテリアリティを特定しました。

6つの分野のうち、事業上の重要性とサステナビリティのインパクトが高い「環境」、「顧客」、「社員」、「倫理・統治」を最重要課題とし、この4分野への活動を中期経営戦略の成長戦略に反映しています。

中期経営計画では、マテリアリティ・サステナビリティ基本方針・SDGsの関係を整理し、マテリアリティに取り組むことでESG課題解決と収益向上の好循環を加速し、持続的な成長を目指すものとして取締役会にて決議しています。

当社では、事業環境や経営環境の変化に柔軟に対応していくため、今後も定期的にマテリアリティ分析を実施し、リスクと機会を経営に反映していきます。

1. イノベーションによる成長の加速



現場を最適化する新たな顧客価値の創造

- DXスマートコンストラクションの推進、海外展開
- 鉱山用オープンテクノロジープラットフォームによる事業推進
- プラットフォームと親和性の高い高度化した商品開発・市場導入

カーボンニュートラルに向けた価値（モノ・コト）づくりの挑戦

- 電動化機械の開発・市場導入
- スマート林業の普及・拡大
- 地球環境負荷ゼロ工場

2. 稼ぐ力の最大化



成長市場におけるプレゼンス拡大

- アジア・アフリカ市場への取り組み強化
- 林業機械事業、坑内掘りハードロック事業の拡大
- アフターマーケット事業の拡大

バリューチェーンビジネスの進化による更なる成長

- データ・ドリブン・ビジネスモデルの構築
- ライフサイクルサポートビジネスによる差別化の推進
- リマン・リビルド事業の拡大

3. レジリエントな企業体質の構築



効率的な事業運営とリスクマネジメントの強化

- 環境変動に強い生産調達体制の強化（マルチソース比率の拡大）
- 経済安全保障リスクのアセスメントと体制の整備
- グローバルなブランド戦略の展開によるコーポレートブランドの強化

多様性に富む人材基盤の充実化

- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 多様な能力開発機会の提供とエンゲージメントの向上
- デジタル人材、オープンイノベーション推進人材の育成

こちら、中期経営計画の資料からの抜粋ですが、成長戦略3本柱における、主な重点活動事例を掲載しています。

経営目標について

- 経営目標は、成長性、収益性、効率性、健全性、およびESGの構成・内容を継続とし、ESGには、新たに、2050年にカーボンニュートラルを目指すチャレンジ目標を追加。
- 株主還元は、成長戦略への重点投資を優先しながら、安定的な配当の継続に努める方針を継続

項目	経営指標	経営目標
成長性	売上高成長率	業界水準を超える成長率
収益性	営業利益率	業界トップレベルの利益率
効率性	ROE	10%以上
健全性	ネットD/ELレシオ	業界トップレベルの財務体質
リテール	ROA	1.5% - 2.0%
ファイナンス事業	ネットD/ELレシオ	5倍以下

ESG	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出削減：2030年50%減（2010年比） 2050年 カーボンニュートラル（チャレンジ目標） ・再生可能エネルギー使用率：2030年50%
	外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・DJSI*選定（ワールド、アジアパシフィック） ・CDP** Aリスト選定（気候変動、水リスク）
株主還元	連結配当性向	<ul style="list-style-type: none"> ・成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる ・連結配当性向を40%以上とする。

KOMATSU

13

こちらは、今回の中期経営計画の経営目標です。

赤い枠で囲んだ部分が、ESGの経営目標です。

2030年までのCO2削減と再生可能エネルギー使用率の目標達成に向けて、継続するとともに、外部評価も引き続き、取り入れていきます。

また、チャレンジ目標として、2050年 カーボンニュートラルに向けて取り組んでいくことも、ESG目標に新たに加えました。

コマツの目指す、ありたい姿：2050年 カーボンニュートラル宣言

2030年までのCO2排出量削減目標*の先を見据え、**2050年までにカーボンニュートラルを目指し、脱炭素社会に向けた価値づくりに挑戦。**

- ・ 生産技術改革による高効率化および様々な製品開発アプローチへの対応（技術パートナーシップの拡大）
- ・ お客様の現場全体の最適化を通じた効率改善および循環型ビジネス（林業機械、リマン**事業）の推進

(*CO2排出量：2010年比 50%削減、再生可能エネルギー使用比率：50%) (**リマン：リマニファクチャリングの略)

生産 (Scope 1+2：自社排出)	開発 (Scope 3：製品使用時)	お客様の現場
<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネルギー 生産性向上・高効率化によるエネルギー消費の縮減 ● 創エネルギー 再生可能エネルギー設備の導入（太陽光、バイオマスなど） ● 再生可能エネルギー購入 認証されたグリーン電力購入やカーボン・クレジットの取得など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業効率向上・燃料消費量の削減 (内燃機関：ディーゼルエンジン) ● よりクリーンな動力源への移行 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド ・バッテリー式／有線式 電動 ・燃料電池 ・水素／バイオ燃料／e-fuel内燃機関 	<ul style="list-style-type: none"> ● 顧客現場オペレーションの最適化を通じた効率改善 <ul style="list-style-type: none"> ・DXスマートコンストラクション ・鉱山用オープンテクノロジープラットフォーム ● 林業機械事業による貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・植林・造林・育林・伐採のあらゆる工程の機械化 ・スマート林業  ● リマン**事業による貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・コンポーネントの再生・再利用（資源節約、廃棄物削減）

こちらはカーボンニュートラルに向けた活動です。

当社は、昨年、地球温暖化対策と事業成長の両立を目指し、2050年 カーボンニュートラル宣言を打ち出しました。

活動の対象を、自社の拠点、自社の製品使用時にとどまらず、お客様の現場全体にも広げ、スマートコンストラクションなどにより、お客様の施工を最適化し、社会のCO2削減にも積極的に貢献します。

さらに、植林・育林・伐採などの森林再生をサポートする林業機械事業と、コンポーネントを再生、再利用するリマン事業についても、社会のCO2削減に貢献する循環型ビジネスと位置付け、強化を続けていきます。

ESG課題解決に向けて：サステナビリティ基本方針とおもな活動テーマとSDGs

ESG課題解決に向けたおもな活動は、KPIを設定して、進捗を管理。詳細は、統合報告書にて開示

	SDGsとの関係	マテリアリティ（重要課題）	ESG課題の解決に向けた活動テーマ（主なKPI）
人と共に	 ジェンダー平等  働きがいと経済成長  不平等をなくす  パートナーシップ	【社員】【人権】 <ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生 エンゲージメント向上 D&I推進 能力開発 人権の尊重 	安全で安心して働ける職場環境づくり（労働災害関連指標） 社員エンゲージメントの向上（エンゲージメントサーベイスコア） ダイバーシティ＆インクルージョンの推進（女性、障がい者比率） 個人の能力開発と事業成長の実現（DX・AI人材教育） 人権デューデリジェンスの推進（実績開示）
社会と共に	 産業と技術革新  まちづくり  つくる・つかう責任  パートナーシップ	【顧客】【倫理・統治】 【地域社会】 <ul style="list-style-type: none"> ソリューション提供 製品安全・品質 ガバナンス コンプライアンス 地域社会への貢献 	スマートコンストラクション推進による建設現場の生産性向上（導入現場数） 持続可能な資源開発を実現する製品・ソリューションの提供（AHS累積導入台数） 顧客現場の安全性・生産性向上ソリューション：技術開発（自動化、安全装置 開発ステージ） 環境・需要変動に対応力のあるバリューチェーンの構築（アフターマーケット事業：売上伸び率、マルチソーシング比率） ガバナンスの充実、コンプライアンスの徹底（実績開示）
地球と共に	 クリーンエネルギー  産業と技術革新  つくる・つかう責任  気候変動への対策  陸の豊かさ  パートナーシップ	【環境】 <ul style="list-style-type: none"> 低炭素・環境負荷低減へのソリューション開発 資源循環 エネルギー使用量の低減 事業を通じた森林保全への貢献 	地球環境負荷ゼロ工場（CO2低減、再エネ使用、水使用量） 顧客現場におけるCO2排出削減（製品使用のCO2低減、電動化建機開発） 持続可能な循環型林業を支援するソリューション提供（林業機械事業関連指標：売上伸び率、植林、スマート林業等） 循環型ビジネス（リマン）の促進（リマン事業：売上伸び率）

KOMATSU

15

このスライドでは、ESG課題解決の活動とKPI、それらとSDGsの関係を示しています。

今回の中期経営計画では、SDGsの17のゴールの中から、マテリアリティと特に関連性の高い10のゴールを新たに選定しました。

さらに、成長戦略を通じたESG課題解決を着実に遂行していくために、KPIを設定し、達成状況は統合報告書「コマツレポート」で開示していきます。

サステナビリティ基本方針と中期経営計画のKPI

- 中期経営計画の重点活動から、サステナビリティ基本方針に沿った活動をピックアップし、29個のKPIを設定・公表。24年度目標に向け、毎年コマツレポートにて達成状況を報告
- KPIの達成状況は、経営目標とともに、社内役員の業績報酬に連動（株式報酬B）

KPIの24年度目標の例

人と共に (With people) マテリアリティ: 「社員」「人権」	社会と共に (With business) マテリアリティ: 「顧客」「倫理・統治」「地域社会」	地球と共に (With the planet) マテリアリティ: 「環境」
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">休業災害度数 (100万時間当たり) 前中計3年平均 0.65からの 継続的な低減</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">エンゲージメントサーベイ・スコア 国内: 75以上 グローバル: 85以上</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">女性管理職比率 グローバル: 13%以上</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">DX、AI人材の育成 3年累計受講者数 DX 実践/入門: 180/900 AI 実践/入門: 30/90</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">スマコン導入現場数 24年度単年度 グローバル: 13,000現場</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">AHS累計導入台数 グローバル: 740台</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">マルチソーシング比率 BCP対応 92%</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ガバナンス・コンプライアンスの徹底 取り組み実績を開示</p> </div>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">生産によるCO2排出削減率 2010年比△45%</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">再生可能エネルギー使用比率 20%</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">製品使用によるCO2排出削減率 2010年比△24%</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">建設鉱山機械の電動化推進 開発ステップ、市場導入機種の大拡大</p> </div>

16

このスライドでは、KPIの24年度の目標をいくつかご紹介しています。

中期経営計画の重点活動から、サステナビリティ基本方針に沿った活動をピックアップし、29個のKPIを設定・公表しています。

24年度目標に向け、毎年統合報告書「コマツレポート」にて達成状況を開示してまいります。

また、KPIの達成状況は、経営目標とともに、社内役員の業績報酬の株式報酬に連動しています。
(株式報酬B)

「人と共に」では、エンゲージメントサーベイのスコアや、女性管理職比率などのKPIを設定しています。
D&Iについては次のページでもご紹介します。

「地球と共に」では、経営目標である2030年のCO2排出半減、再生エネルギー利用率50%の達成に向けて、中期経営計画のKPIとして、2024年度目標を設定しています。

電動化などの開発関連のKPIについては、具体的な開発計画を公表するわけにはいかないの、定性的な目標となっていますが、都度開発の状況について開示をしていきます。

多様な人材がいきいきと働ける職場づくり（ダイバーシティ&インクルージョン）

- ▶ ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）とは、多様な背景や価値観を持つ社員同士が互いに個性や能力を認め合い活かし合っている状態。
- ▶ D&I推進をイノベーション創出と成長につなげるため、「多様性に富む人材基盤の充実化」を図る。

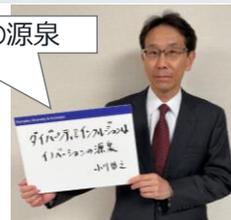
コマツのD&I推進の考え方

活発で建設的な議論ができる健全な職場づくり

モチベーション向上や企業文化の変化

イノベーションの創出 = 会社全体の成長

D&Iはイノベーションの源泉



重点活動「多様性に富む人材基盤の充実化」

D & I リテラシー向上活動（D & I プロモーション活動・アンコンシャスバイアスセミナー等）

グローバルな人材育成

- ▶ 社員の68%が外国籍
- ▶ 主要な現地法人トップ=ナショナル社員



KOMATSU

ジェンダー・ダイバーシティの推進

- ▶ 女性社員比率・女性管理職比率向上
- ▶ 女性リーダーを対象とした研修プログラム
- ▶ 経営層と女性社員の対話：トークイベントの実施（今年度4回）



社員エンゲージメントの向上

- ▶ グローバルエンゲージメント調査を実施
- ▶ 地域・組織ごとの分析を反映した施策



17

こちらではダイバーシティ&インクルージョンの取り組みをご紹介します。

コマツは、D & Iが「活発で建設的な議論ができる健全な職場を作り、イノベーション創出につながっていくもの」と考え、社長によるトップメッセージ「ダイバーシティ&インクルージョンはイノベーションの源泉」のもと、活動を推進しています。

今年度からの中期経営計画では、「多様性に富む人材基盤の充実化」を重点活動に位置付け、各施策に取り組んでおります。

現在、社員のD & Iに対する意識醸成を促進するための「D & Iリテラシー向上活動」を進めており、動画の配信等による理解促進に向けた「D & Iプロモーション・キャンペーン」や、無意識の思い込みに気づき、いきいきと活躍できる職場づくりへのきっかけとする「アンコンシャス・バイアス セミナー」等を展開しております。

また、「グローバルな人材育成」、「ジェンダー・ダイバーシティの推進」、「社員エンゲージメントの向上」をはじめとした取り組みも進めています。

その中で「ジェンダー・ダイバーシティの推進」は、今後さらに加速させていくため、中期経営計画で女性正社員比率と女性管理職比率をグローバルKPIとして設定しています。

具体的な活動としては、経営幹部層のジェンダー・ダイバーシティを目指した研修を開設する等、コマツグローバルの女性リーダー層の計画的な育成機会も設けています。

さらに、女性のキャリアアップへの意欲向上を応援するため、経営層への率直な質問に回答するオンライントークイベントを今年から始めました。今年度4回実施予定であり、これまでに3回開催し、参加者から好評を得ています。

目次

- 1.サステナビリティ推進本部の役割・体制
- 2.サステナビリティ基本方針
- 3.FY22～24中期経営計画におけるESG課題の解決
- 4.サステナビリティ推進本部のその他の活動について

最後にサステナビリティ推進本部のその他の活動についてご紹介します。

地球環境への取り組み

「地球環境方針」に基づき活動⇔サステナビリティ推進委員会でPDCA

コマツ「地球環境方針」

基本理念

1. 持続可能な発展への貢献
2. エコロジーとエコノミーの両立
3. 企業の社会的責任を果たす

行動指針

■ 地球環境問題への取り組み（重点4分野）

- | | | |
|--------------------------|---|--|
| ①気候変動への対応 | ➤ | 全ライフサイクルにおける温室効果ガスの排出削減 |
| ②循環型社会の構築 | ➤ | 投入資源及び廃棄物の削減
➤ 循環型林業およびリマン事業の推進 |
| ③大気、水環境などの保全・
化学物質の管理 | ➤ | 地域法令等の遵守
➤ 使用する化学物質の確実な管理
➤ 有害な化学物質の削減・代替・使用中止 |
| ④生物多様性への対応※ | | |

■ 環境管理体制の構築（環境マネジメント国際規格ISO14001取得等）

■ 社員への環境教育、環境に関するステークホルダーとのコミュニケーション

※2011年に「コマツの生物多様性宣言」および「コマツの生物多様性ガイドライン」を制定

KOMATSU

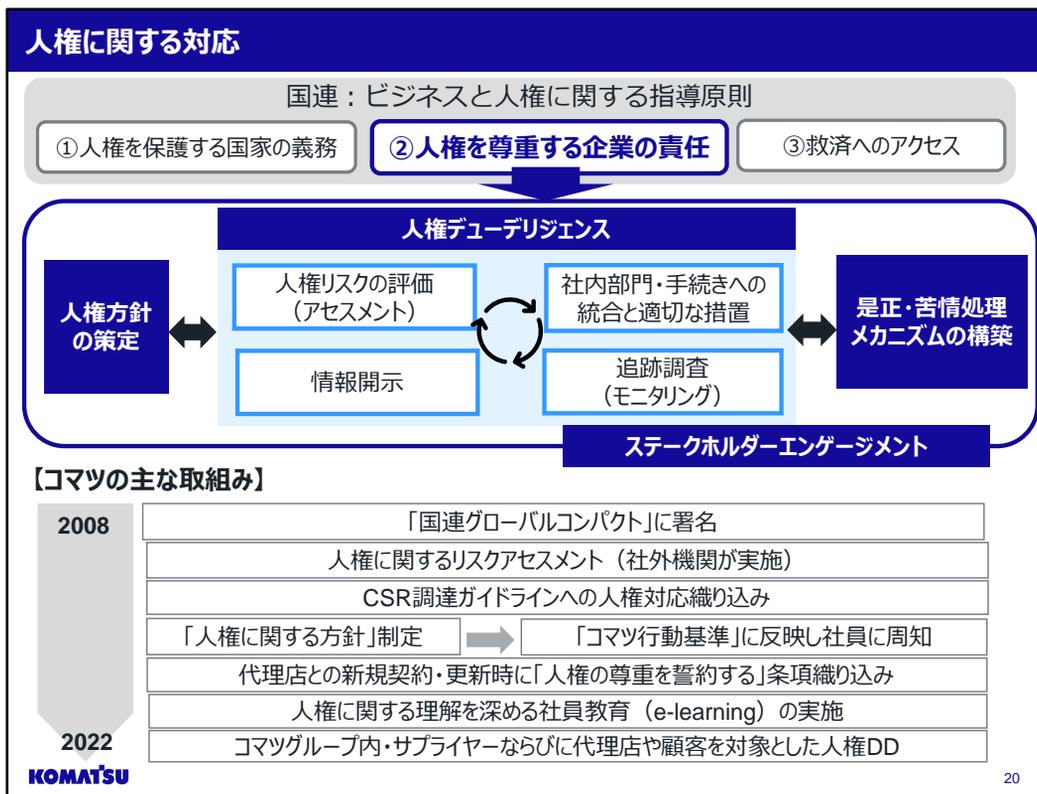
19

当社では、「地球環境方針」を定めており、具体的な活動内容は毎年行うサステナビリティ推進委員会で議論しています。

「地球環境方針」は、基本的な理念と、それに基づいた行動指針として、重点4分野に関する取り組みや、推進する体制を示しているものです。

CO2排出の他、廃棄物の削減や化学物質の管理、生物多様性への対応も網羅しています。

また、こういった活動を推進していくために、環境マネジメントシステムをはじめとした体制を構築するとともに、社内外への情報開示などステークホルダーとのコミュニケーションを図っています。



こちらは、人権に関する取り組みです。

当社は2008年に国連のグローバルコンパクトに署名して以来、人権に関するリスクアセスメントや、CSR調達ガイドラインへ人権対応を織り込む などの活動を行ってきました。

また、2019年には「人権に関する方針」を制定し、「国連のビジネスと人権に関する指導原則」をはじめ国際基準に準拠した人権の尊重を、グローバルな組織全体に適用して事業を行うことを宣言しています。

この方針に基づき、人権デューデリジェンスを着実に実施し、活動状況の開示、ステークホルダーとの対話に取り組んでいますが、昨年2021年には、サステナビリティ推進委員会の議論を経て、コマツグループ内および川上である調達サプライチェーンへの書面調査、さらに、川下である販売代理店や顧客へ現地調査の実施を決定し、今年度、その対応を具現化しています。

人権デューデリジェンスの着実な実施は、中計のKPIのひとつとしており、活動の内容や進捗について、統合報告書「コマツレポート」にて報告していきます。

社会貢献活動の事例

人と共に

地域人材育成支援



こまつの杜の活動
(理科教室、花育活動)



社会と共に

女子柔道
への支援




新型コロナウイルス感染症
医療用品の提供等
(協力企業との協業)



事業所フェア

**事業活動で培った
ノウハウや強みを活かした
社会貢献活動**

地球と共に

森林再生プロジェクト



日本花の会
への支援



社員参加型の貢献活動 「One World One Komatsu」

地雷除去プロジェクト
→農地復興








こちらでは、社会貢献活動の主な事例を記載しています。

基本的なスタンスとしては、事業で培ったノウハウや強みを社会に還元する、というもので、サステナビリティ基本方針に沿った活動に取り組んでいます。

昨年は、100周年を機に「社員参加型の社会貢献活動」もスタートしました。

これは、テーマを「環境・Sustainability」とし「One World One Komatsu」というネーミングで、主な活動項目は、「CO₂削減」「水保全」「再生可能エネルギーの利用」そして「廃棄物の低減」をグローバルで推進する活動です。

ツールとして9ヶ国語に対応したプラットフォームを導入し、活動の浸透を図るために、4/22の国連Earth Dayにちなみ、全世界で一斉に植物を植えたり、地域清掃の活動を行い、その活動の様子をグローバルに共有するイベントを2年連続で開催しました。

地雷除去プロジェクト（農地復興）

- 2008年から日本外務省が支援するNPO「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」と提携し、コマツの技術を活かした対人地雷除去機や建設機械で復興を支援
- 2022年11月 10校目の開校式（カンボジア）を開催し、小川社長も出席

地雷原

2022/11 小川社長によるカンボジアの地雷原視察（地雷除去機とともに撮影）

機械で素早く
安全に除去



コミュニティの復興

道路整備・灌漑工事



小学校建設

2022/11 10校目の小学校が完成
カンボジア・バンテイメンチエイ州での開校式典



農業用建機による
農地復興



KOMATSU

22

コマツは2008年から認定特定非営利活動法人「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」と提携し、カンボジアをはじめとする対人地雷の被害に苦しむ地域において、地雷処理とその跡地の復興事業を支援してきました。

2022年11月には、カンボジアで10校目の小学校が開校し、式典には、社長小川とともに私も参列しました。

地雷を除去した安全な土地では、建設機械により、道路や橋梁、溜池などを造成、さらに小学校を建設し、地域全体の自律的な復興に寄与する活動を進めてきました。

また、対人地雷と同じく、戦後も市民の生活に影響を与え続けるクラスター弾の不発弾処理事業も、コマツは機材の無償貸与と技術支援を通じてサポートしています。

さらに、カンボジアでは地雷原跡地を豊かな農地として蘇らせるため、2020年から農業支援活動を展開しています。

稲作に適した圃場を生み出すことを目的として機材を活用しており、特にICT技術によってブレードの動きが自動制御されたブルドーザーは、農地の高度な均平化に効果を発揮し、米の収穫量増大につながりました。

統合報告書「コマツレポート2022」

- ステークホルダーの皆さまに、中長期的な企業価値向上の取り組みをご紹介する目的で「コマツレポート（統合報告書）」を制作
- 「成長戦略による収益向上とESG課題解決の好循環で持続的成長を目指す」価値創造モデルと中期経営計画を中心に、取り組みをご紹介

コマツの年次報告書の体系（いずれの報告書もコマツウェブサイトから閲覧可能）

コマツレポート（統合報告書）

有価証券報告書（財務活動に関する報告）

ESGデータブック（サステナビリティに関する報告）

コマツレポート2022の主なコンテンツ



- ◆コマツの存在意義とサステナビリティ基本方針
- ◆コマツの概要と強み
- ◆社長メッセージ
（次の100年に向けた経営課題と経営戦略）
- ◆CFOメッセージ（財務戦略）
- ◆中期経営計画（策定プロセス・成長戦略）
- ◆成長戦略によるESGの課題解決
（気候変動対応・人材育成・社会貢献）
- ◆コーポレート・ガバナンス

23

こちらは、9月に公表した統合報告書「コマツレポート2022」です。

非財務情報の開示に関しては、ISSBの設置など、基準統合に向けた動きが加速していますが、その重要性は一層高まっていると認識しています。

当社では、詳細な非財務情報に関しては、「ESGデータブック」において開示しており、毎年掲載内容、データを拡充するよう努めています。

一方「コマツレポート」では、財務と非財務の情報を統合し、ありたい姿や存在意義から始まり、ビジネスモデルの強み、戦略とその進捗状況を一貫性のあるストーリーで紹介し、当社の持続可能性を、あらゆるステークホルダーの皆さまに分かりやすくお伝えすることを目指しています。

2022年度版のコマツレポートでは、「成長戦略による収益向上とESG課題解決の好循環で持続的成長を目指す」価値創造モデルと中期経営計画を中心に、取り組みをご紹介しました。

今後も、非財務情報開示の基準やルール見直しの動向も注視し、引き続き、ステークホルダーの皆さまに、当社の活動への理解を深めていただけるような情報開示に努めていきます。コマツレポートについては、毎年改善を織り込んでいきたいと考えており、後ほどご意見などいただければ幸いです。

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに沿った取り組み

- コマツは2019年度に賛同し、2020年度の統合報告書から開示
- 2022年度は1.5℃シナリオ※での分析等により開示を充実

気候変動に関する
リスクと機会を
分析し戦略を公表

開示の
枠組み

ガバナンス

戦略

リスク管理

指標と目標

※ 地球の平均気温上昇を
産業革命以前に比べ
1.5℃に抑えるシナリオ

気候変動が及ぼすリスクと機会、およびその対応戦略（特定した4つのテーマ）

テーマ	リスク・機会（×リスク ○機会）	主な戦略
資源需要 の変化	<ul style="list-style-type: none"> × 石炭需要減少 ○ 電動化関連の資源需要増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電動化関連資源のための坑内掘り機械拡大 ・ 鉱山機械の自動化・遠隔操作等
低炭素 製品 への移行	<ul style="list-style-type: none"> × 燃費規制の強化、開発・設備投資コスト増 × 技術開発と競争軸の変化 ○ 電動化、次世代技術の進展 ○ リマン事業やスマートコンストラクションの需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低炭素製品の開発 ・ スマートコンストラクションなどのソリューション事業の拡大 ・ 循環型ビジネスへの貢献
製造 コスト	<ul style="list-style-type: none"> × 炭素価格上昇によるコスト増 ○ CO2削減技術で競争力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CO2排出の削減 ・ 再生エネルギー利用の促進
自然 災害	<ul style="list-style-type: none"> × 異常気象による災害 ○ 国土強靱化のビジネス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨、洪水対策

KOMATSU

24

こちらは、コマツレポートにて開示しているTCFDの枠組みに沿った取り組みです。

当社は19年4月にTCFDに賛同し、その枠組みに沿った取り組みを進めています。

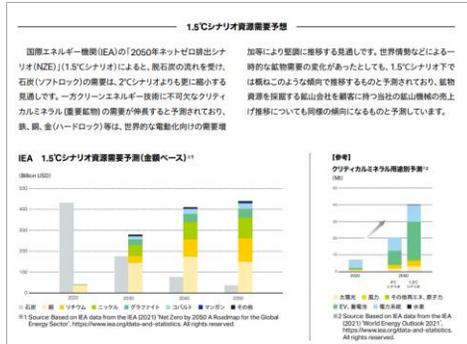
4つの重要テーマと、各々のリスク・機会ならびに主な戦略はスライドでお示している通りです。

21年5月に、2050年ネットゼロを想定したIEAの1.5℃シナリオが公表されました。

今回の「コマツレポート2022」では、サステナビリティ推進委員会などで議論を重ね、取締役会への報告を経て、本年より1.5℃シナリオについても選択、分析を実施しています。

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに沿った取り組み

- 「コマツレポート2022」では、1.5℃シナリオに基づく戦略をより具体的に説明。
- 坑内掘りハードロック向け鉱山機械事業の拡大など、持続可能な資源開発と鉱山オペレーションのゼロエミッションの両立に向けた取り組みを紹介。



お客様の現場の課題解決を通じて、持続可能な資源開発と鉱山オペレーションのゼロエミッションの両立を目指します。

代表取締役 兼 専務執行役員
マイニング事業本部長
森山 雅之

気候変動に関する意識の高まりから、世界はカーボンニュートラルに向けた大きな変化のなかにあります。我々のお客さまである鉱山会社にとって、鉱山オペレーション

は環境問題や地域社会との共存の観点から開発許可には時間がかかる見込みです。お客さまはこれまで以上に深度の高い場所や居住地域から離れた遠隔地での採掘



マイニングTBMトライアル
チリ国営の鉱山会社
コデルコ社と2024年度
からトライアル開始予定

KOMATSU



コマツGHGアライアンス
鉱山会社のお客さまと共に「コマツGHGアライアンス」を締結、いかなる動力源でも稼働可能な「パワーアグノスティックトラック」の開発を目指す

25

22年度の統合報告書「コマツレポート」では、1.5℃シナリオに基づき、将来の資源需要の変化の見通しと、当社の戦略としてハードロック坑内掘り向けの鉱山機械事業の強化などの取り組みについて紹介しています。

加えて、マイニング事業本部長の森山と、お客さまであるマイニング大手の役員からのメッセージも掲載し、持続可能な資源開発を、お客さまとともに実現していくことをより具体的にご説明しています。

最後に、地雷除去プロジェクトを紹介する動画をお見せします。11月に社長と私も参列したカンボジアでの開校式典や、現場の視察の様子なども収録されています。

以上